

みどり
 山 水土里ネット みやぎ

土地改良広報

謹賀新年

2015

1

写真：伊豆沼の朝日（宮城県観光課提供）

トピックス

- P 2 新春挨拶
 P 8 平成26年度第1回臨時総会を開催
 P 9 平成26年度第2回理事会を開催
 P 10 第37回全国土地改良大会山梨大会が開催される
 P 12 平成26年度農業農村工学会賞（優秀報文賞）授与式
 が開催される
 P 13 第19回七夕まつり“こどもに夢を”
 P 14 疏水フォーラムin大崎2014が開催される
 P 15 農業農村整備の集いが開催される
 P 16 みやぎ農業農村復興米の新米試食会を開催
 P 17 平成26年度新米（復興米）試食会を開催
 P 18 平成26年度土地改良区役員研修会を開催
 平成26年度土地改良区職員研修会を開催
 P 19 I S O 9001：2008更新審査が実施される
 平成26年度消火訓練並びに避難訓練（本部）を実施
 P 20 加美郡色麻町色麻土地改良区・加美郡色麻町吉田土
 地改良区合併予備契約調印式が開催される
 P 21 平成26年度宮城県中山間地域活性化推進協議会担当
 職員研修会が開催される
 平成26年度 農業集落排水事業推進研修会が開催される
 P 22 宮城県農業用水利施設小水力等発電推進協議会
 平成26年度第1回総会が開催される
 P 23 平成26年 秋の叙勲・文化の日表彰

- P 24 東日本大震災からの早期の再生・復興と平成27年度
 農業農村整備予算の確保に関する要請活動の実施
 P 25 農業農村整備関係予算の確保並びに東日本大震災か
 らの再生・復興に関する要請活動の実施
 P 26 直轄特定災害復旧事業「名取川地区」排水機場ポン
 プ運転稼働式が開催
 農山漁村地域復興基盤総合整備事業「山元北部・磯・
 山元東部地区」の復興安全祈願式が開催
 P 27 農山漁村地域復興基盤総合整備事業「七ヶ浜地区」
 の復興安全祈願式が開催

土地改良区めぐり ～シリーズ16～

- P 28 あぶくま川水系角田地区土地改良区（角田市）

多面的機能支払交付金

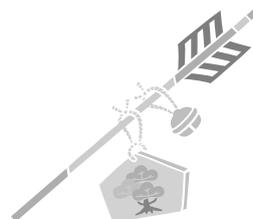
- P 30 多面的機能支払交付金
 浅部農地・水・環境保全組織（登米市）

おしらせ

- P 32 水土里情報システムについて
 P 33 本会役員の就退任関係、本会会員代表者の就退任関
 係、仙台市泉土地改良区伊藤孝理事長急逝
 P 34 連合会日誌・今後の行事予定
 P 35 小水力発電キットを貸出致します!!



新年のご挨拶



宮城県土地改良事業団体連合会
(水土里ネットみやぎ)

会長 伊藤 康志

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様にはご家族お揃いでお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

東日本大震災から3年10ヶ月余りが経過し、この間、各関係機関のご尽力により被災地の復旧・復興は着実に進んでおります。

現在、宮城県では「宮城県震災復興計画」における「復旧期」から「再生期」へと転換し、「復旧」にとどまらない抜本的な「再構築」を進め、「創造的な復興」を具現化するための取り組みが本格化しているところです。

しかしながら、農地の復旧対象面積の20%弱が未だ復旧していないという現状もあり、これからも関係各位のご尽力をお願いするとともに、我々水土里ネットとしましても東日本大震災を風化させることの無いよう適切な情報発信に努めながら、みやぎの農業・農村が着実な復興を実感できるよう、現場での取り組みをより一層進めて参りたいと考えております。

また、去年は8月に日照不足はあったものの、その後は比較的好天に恵まれ自然災害の影響も最小限で済んだこともあり、県内の作況指数は105で作柄は5年連続の「やや良」となりました。作柄を良好に維持できている大きな要因は、水や土地改良施設を地域の「共有財産」として、「地域連携」のもとに有効活用できた結果であり、まさに農業農村整備事業の成果そのものであると認識しております。

一方、我が国の農業・農村を取り巻く情勢は厳しさを増しており、米価の下落を始めとした農業生産額の減少と農業従事者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加等の構造的な諸問題に加え、TPPによる「例外なき関税の撤廃」に代表される世界経済の自由市場化が我が国の農業分野に重くのしかかる事が危惧されるなど、解決の糸口がなかなか見いだせない難題が山積しております。

このような中、政府においては、昨年6月に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂し、現在このプランに基づき、産業政策と地域政策を車の両輪として、若者たちが希望を持てる「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」を創り上げていくこととしております。

本会といたしましては、「需要フロンティアの拡大」・「バリューチェーンの構築」・「生産現場の強化」・「農村の多面的機能の維持・発揮」などといった農林水産行政の方針に対し、その方向性についての議論をさらに深めるための具体的な施策提言を行うとともに、国・県との連携を図りながら組織の総力を結集して各種事業の推進と、必要な予算確保を図る活動等を一層強力に推進していくことで、会員市町村・土地改良区の皆様へこれまで以上に手厚い支援を実施して参る所存であります。

我々水土里ネットみやぎはこの大きな時代の変革の中で、先人たちの英知により守り育ててきた「水・土・里」を将来にわたって継承していくため、東日本大震災からの復興をはじめ内陸部の要請にも対応しつつ積極的な活動に取り組んで参りますので、関係する皆様方の一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、本年が皆様にとりまして良き年となりますよう、更にまたご健勝とご発展をご祈念申し上げます。まして新年のご挨拶とさせていただきます。



復旧・復興とともに「創造的な復興」を着実に進める年に

宮城県知事 村井 嘉 浩

新年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健康と御多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、本県出身の羽生結弦さんが冬季オリンピックフィギュアスケート男子シングルで金メダルを獲得され、県内のみならず、日本全国に感動を与えてくれました。また、天皇皇后両陛下に本県被災地を御訪問いただき、私たち県民一同、大きな励ましを受けました。県内では復興の槌(つち)音が聞こえ、各地で、災害公営住宅への入居が始まるとともに、震災で休止していた事業が再開されるなど、復興が感じられるようになってまいりました。これも、県内外の多くの方々からの御支援と、県民の皆様の御尽力のたまものと考えております。

今年は、「再生期」の2年目になることから、昨年に引き続き、「迅速な震災復興」、「産業経済の安定的な成長」、「安心して暮らせる宮城」、「美しく安全な県土の形成」を政策推進の基本として、復旧・復興を最優先に推進するとともに、「創造的な復興」に向けた様々な取組を着実に進め、県民の皆様が復興を実感し、経済成長と豊かさを感じていただけるよう注力してまいります。

本県の産業経済が安定的に成長し、豊かな社会をつくるためには、被災した産業の再生とともに、産業構造の転換や競争力強化を進めることで、県内経済を活性化していくことが必要になります。このため、新たな企業立地や投資を促進しつつ、取引拡大や技術力向上への支援などにより、県内企業の競争力強化等を進めてまいります。また、交流人口の拡大に向けて、「復興ツーリズム」の推進や、官民連携による誘客強化を図ります。さらに、放射光施設や国際リニアコライダの誘致など、東北地方全体の発展に向けた取組も充実させてまいります。

農林水産業においては、被災した生産基盤の早期復旧に併せ、競争力のある先進的な経営体の育成を図っていくことが重要です。そこで、農業については、農地の集積や大区画化による大規模経営体の育成等を進めるとともに、収益性の高い農業の実現を目指し、多様な担い手を育成してまいります。林業については、「優良みやぎ材」などの供給体制の強化や木質バイオマス活用拠点の形成に努めます。水産業については、民間のノウハウなどを活用しながら、競争力を強化し、協業化や6次産業化に向けた取組を積極的に支援してまいります。さらに、「食材王国みやぎ」の再構築に向けて食品関連産業の商品づくりや販路拡大等の支援をきめ細かく行うこととしております。

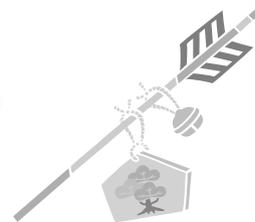
農業の先進的な取組として、復興交付金を活用した農地整備に取り組む地域では、地域の合意形成をもとに、従来にない大規模な農業経営体による営農が始まろうとしています。このため、農地の大区画化や集積を加速化させるとともに、米価の下落や経営販売戦略の確立など、新たな経営体が抱える課題の解決について支援することとしております。

また、内陸地域においても、農地中間管理事業を活用した、担い手への農地集積による経営規模拡大への支援を展開するとともに、担い手を含む地域の農業者等の協働によって、農地や農業水利施設等の地域資源が適切に保管理され、多面的機能が持続的に発揮されるよう積極的に支援してまいります。

甚大な被害をもたらした東日本大震災から本県が「創造的な復興」を成し遂げ、「生まれてよかった、育ってよかった、住んでよかった」と県民の皆様が実感できる宮城県となるよう、着実に歩みを進めてまいりたいと考えておりますので、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。



年頭のごあいさつ



宮城県議会議長 安藤 俊 威

新年あけましておめでとうございます。皆様には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

東日本大震災からまもなく4年となります。これまで国内外からの多大な御支援・御協力をいただきながら、県民一丸となった全力の取り組みにより、主要な道路や港湾などのインフラの復旧・整備が進むとともに、一部では災害公営住宅への入居が始まるなど、徐々に復興への確かな兆しが見えてまいりました。しかしながら今なお、被災地域では、多くの方々が不自由な生活を余儀なくされており、生活支援の充実をはじめ、まちづくりや産業基盤の整備など、本格的な復興のための取組は未だ道半ばであります。

今年は、「宮城県震災復興計画」における「再生期（4年間）」の2年目となりますが、今後は我が県のさらなる発展に繋がる県土づくりの着実な実現が求められております。

このような中、昨年は、第22回オリンピック冬季競技大会フィギュアスケート男子シングルにおいて、本県出身の「羽生結弦選手」が見事「金メダル」に輝き、宮城県民のみならず、日本全国に素晴らしい感動を与えてくれました。また、天皇皇后両陛下には、本県被災地を御訪問いただいて、たくさんの励ましのお言葉を賜り、震災からの復興を目指す宮城県民にとって大きな力となりました。

さて、宮城県議会は、昭和22年5月に初めての議会が開かれて以来、昨年11月定例会で「第350回」を迎えました。この67年間は県政140年の中でも特に社会環境の変化が激しく、また我が県が飛躍的な発展を遂げた時期でもあり、本県議会は、県政の一翼を担うものとして、県土基盤の整備や県民福祉の向上など、県民生活に深く関わる様々な場面において、その責任と役割を果たしてまいりました。

そして今日、少子高齢化、人口減少社会が到来し、新たに「地方創生」が叫ばれる時代にあって、地方議会を取り巻く環境はさらに変化し、期待される役割もこれまで以上に多様かつ重要となっております。

この節目を機に宮城県議会では、志を新たに東日本大震災からの確かな復興への取組を加速しつつ、産業の振興など眼前に迫る諸課題にも果敢に挑戦し、ふるさと宮城の来たるべき近未来のあるべき姿を見据えながら、後世に誇れる県土づくりに全力で取り組んでまいりますので、どうか皆様におかれましても、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりまして、素晴らしい一年となりますよう御祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。



新年の御挨拶



東北農政局長 佐々木 康 雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より農政とりわけ農業農村整備事業の推進につきまして、多大なる御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、4年が経過しようとしております。津波により被災した約2万ヘクタールの農地については、これまでの災害復旧工事等により、本年は、転用する農地を除けば約8割の農地で営農再開が可能となる見込みです。このように復興に向けた取組が力強く進められている地域がある一方で、放射性物質による影響などによりまだ復旧に時間がかかる地域もあります。このような地域において一日も早い復旧・復興が図られるよう、被災された方々の心情に寄り添いながら、引き続き全力で取り組んでまいります。また、震災の記憶を風化させないよう、復興の取組に関する情報等の更なる提供・発信に努めてまいります。

農林水産省では、昨年9月に「攻めの農林水産業実行本部」を立ち上げ、「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき、農林漁業者の所得を向上させ、農山漁村のにぎわいを取り戻していく「攻めの農林水産業」を推進することとしております。管内の県、市町村、農林漁業者等との意見交換など現場の声を丁寧に聴きながら、課題の把握や解決策の検討を行い、農林漁業関係者と一体となって取り組んでまいります。

申し上げるまでもなく、東北地方の農業は水田を中心に形成され、地域経済の中で重要な地位を占めるとともに、我が国の主要な食料供給基地として重要な役割を担っております。また、消費者の皆様への安全な食料の安定供給やその有する多面的機能の発揮等を通じ、国民生活の維持向上の上でも重要な役割を果たしています。

このような中、昨年は、米の概算金が前年に比べて大きく低下したことを踏まえ、当面の資金繰り対策、収入の減少に対する補てん対策を実施するとともに、主食用米から需要のある飼料用米等への転換を進めていくことなどにより、農業経営と米の需給の安定、水田のフル活用を図っていくこととしております。

農業の競争力を強化し、持続可能なものとするためには、農業の構造改革を加速化することが必要です。このため、各県に農地中間管理機構が整備されたところであり、地域内で分散・錯綜している農地の利用状況を整理して、担い手ごとに集積・集約化を図るとともに、生産コストの削減・効率化に資する農地の大区画化、汎用化等の農業生産基盤の整備をきめ細やかに推進してまいります。

同時に、水田農業にとって、安定的な農業用水の確保は生命線です。近年は自然災害も多く発生していることから、国土強靱化の観点も踏まえ、老朽化した農業水利施設について、適時に更新等の事業を実施するとともに、長寿命化・耐震化対策を引き続き推進してまいります。国営事業については、継続中の16地区の事業を着実に実施するとともに、平成27年度から新たに4地区で着工することを目指しております。

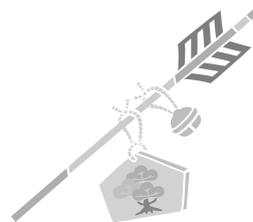
また、農業水利施設等を活用した小水力・太陽光発電の導入は、地球温暖化の防止に加えて、施設管理コストの軽減という観点からも重要な取組です。このため、農村地域に存する豊かな資源が積極的に活用されるよう、引き続き支援してまいります。

さらに、農業が有する多面的機能の維持・発揮のための地域の共同活動に対する支援については、本年4月から法律に基づく措置となります。より安定的な制度になりますので、取組が一層広がるように県、市町村とも連携して推進してまいります。これらの施策の展開を通じて、農村地域の発展に貢献してまいりたいと考えております。

東北農政局といたしましては、各地域が置かれた状況に応じてきめ細やかな支援に努め、東北を新たな姿の食料供給基地として再生させるために、組織を挙げて取り組んでまいり所存です。本年も皆様の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



新年に当たって



全国土地改良事業団体連合会
(全国水土里ネット)

会長 野 中 広 務

平成27年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進に御尽力いただいております皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年末は衆議院議員選挙が行われ与党の大勝となり、慌ただしいままに補正予算や次年度予算の編成作業が越年することとなりました。農業農村整備事業に携わられる皆様には、何かと心休まらない年の瀬となったのではないのでしょうか。

改めて申し上げるまでもなく、農業・農村は国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものであります。このため、先人達は農業・農村が健全に発展していく上で、極めて重要な役割を担う農地や農業用水などの維持、更新に向け、献身的な努力を続けてきました。

最近、気候変動により、全国各地に台風やゲリラ豪雨が襲来してきておりますし、火山の噴火、地震等により甚大な被害も発生しております。災害に遭われた方々に対し、心からお見舞い申し上げますとともに、復旧にあられた方々に対しまして、心から感謝申し上げます。

さらには、東日本大震災から3年10ヶ月が経ちますが、被災地では、一日も早い復旧・復興を望んでおります。

全国の農業・農村におきましては、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しています。また、昨年は減反政策からの転換に加え、コメの仮払金の低迷など、コメを巡る状況が一段と厳しさを増してきました。一方で、全国各地で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非主食米等への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと大変危惧しております。

さらには、TPP交渉においても、昨年内合意は見送られましたものの、引き続き国益をかけた厳しい調整が行われております。

こうした内外の厳しい情勢が続く中、政府におかれましては、農業・農村の所得倍増を目指すとともに、美しく伝統ある農山村の継承と食料自給率・自給力の向上に向け、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を策定し、農地中間管理事業や日本型直接支払制度を積極的に展開されているところであります。また、我が国の国土を維持保全する観点から、「国土強靱化基本計画」を決定し、種々の施策も展開されています。

更に、昨年9月には、「まち・ひと・しごと創生本部」が立ち上げられ、石破大臣がご就任されて、地方を中心として人口急減・超高齢化が急速に進行していくという課題に対し、魅力あふれる地方を創生していくべく積極的に取り組まれております。

先の衆議院選挙では、与党の公約にも「農地の大区画化、汎用化、畑地かんがい等を加速化し、農業の生産性の向上、高付加価値化を図るため、農業農村整備事業を推進します」と書いて頂いたところであります。

我々水土里ネット関係者としましては、こうした政府等の動きを重く受けとめ、その目指す方向に沿って、積極的な貢献を果たしていくことが必要と考えます。加えて、水土里ネットが農業・農村を守り、発展させていく役割の重要性・必要性についても、広く国民の皆様にもアピールし、共感を得ていく努力も必要です。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開すべく、全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

地域の農業や農村が大きく変貌しつつある今、「水」「土」「里」を担う中核的な存在である水土里ネットが、長年培ってきた技術と経験を最大限に活用し、新たな地域農業を切り開き、国民の財産である農業・農村を守り、発展させていくことが重要であります。そのことによって、水土里ネットと農業・農村に対する国民の皆様幅広い共感が得られ、施策が安定的に実行されるものと確信しております。

本日、輝かしい年の初めに当たり、私も改めて皆様とともに、これら農政の課題に積極的に取り組んで参りますことを、ここにお誓い申し上げたいと存じます。

本年が全国の皆様にとって良き年でありますように、御健勝と御発展を祈念いたしまして、私の新年の御挨拶と致します。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

みどり
水土里ネットみやぎ
 (宮城県土地改良事業団体連合会)



会 長 伊藤 康志
 (大崎市長)



副会長 三品 幸徳
 (亶理土地改良区理事長)



副会長 高橋 義矩
 (迫川上流土地改良区理事長)



専務理事 高橋 清隆
 (学識経験者)



理 事 加藤 徹
 (宮城大学名誉教授)



理 事 大沼 喜昭
 (柴田町土地改良区理事長)



理 事 亀谷 久雄
 (あぶくま川水系角田地区土地改良区理事長)



理 事 佐々木一十郎
 (名取市長)



理 事 菅原 勘一
 (大崎土地改良区理事長)



理 事 佐藤 勝也
 (河南矢本土地改良区理事長)



理 事 安部 昭男
 (伊豆沼土地改良区理事長)



理 事 及川 俊榮
 (北上川沿岸中田地区土地改良区理事長)



総括監事 小野寺 衛
 (涌谷町土地改良区理事長)



監 事 大和田清一
 (大和町土地改良区理事長)



監 事 三浦 敏壽
 (石巻市稲井土地改良区理事長)

外職員一同

平成26年度 第1回臨時総会を開催

本会では、去る8月28日（木）午後1時30分より本会館5階大会議室において、平成26年度第1回臨時総会を開催した。

当日の総会には、東北農政局中西農村計画部長並びに宮城県農林水産部渥美理事兼次長等多数の来賓を迎え、主催者を代表して伊藤会長から『震災から4回目の夏を迎えたが本年は暑い夏だった。全国的には異常気象が常習化しており、豪雨や土砂災害等により全国各地で大変な被害が発生している。被害を受けられた皆様方へのお見舞いと犠牲になられた方へのお悔やみを申し上げる。本日の臨時総会は平成25年度決算関係と役員の補欠選任等4案件を提案しているのでよろしくご審議賜りたい。』と挨拶があり、議事に入った。

議事では、七ヶ宿町の梅津輝雄町長（当時）を議長に選出し、第1号議案から第4号議案までの4案件が上程され、慎重審議の結果第1号議案から第3号議案までは原案通り承認可決された。

引き続き、第4号議案の役員の補欠選任について上程され、各支部から選任された計8名の詮衡委員が慎重審議した結果、宮内詮衡委員長（小山田川沿岸土地改良区理事長）から下記の2名を推薦する旨の報告があり、報告通り満場一致で承認された。

最後に、三品副会長が閉会挨拶を述べ、臨時総会の一切を終了した。

本臨時総会の提出議案は下記のとおり。

- 第1号議案 平成25年度事業報告の承認について
- 第2号議案 平成25年度一般会計収入支出決算の承認について
- 第3号議案 平成25年度財産目録の承認について
- 第4号議案 役員の補欠選任について

なお、第4号議案の補欠選任で選任された方は次のとおり
 会員を代表する理事（2名）

【大河原支部】 亀谷 久雄氏 あぶくま川水系角田地区土地改良区理事長
 [任期 H26.8.28～H27.8.22]

【東 部支部】 及川 俊榮氏 北上川沿岸中田地区土地改良区理事長
 [“ ”]



亀谷 久雄氏
 （あぶくま川水系角田地区土地改良区理事長）



及川 俊榮氏
 （北上川沿岸中田地区土地改良区理事長）



伊藤会長の挨拶



平成26年度第1回臨時総会

平成26年度 第2回理事会を開催

本会では、去る12月8日（月）午後3時15分から平成26年度第2回理事会を開催し、平成26年度一般会計収入支出補正予算の承認について審議を行った。

当日は伊藤会長はじめ理事10名の出席と監事3名並びに参与1名の臨席のもと開催され、はじめに伊藤会長より『本日の理事会では、平成26年度の一般会計収入支出補正予算の専決処分に係る承認についてのみ提案しているの、よろしくご審議願いたい』と挨拶があった。

議事に入る前、小野寺総括監事より過日実施された平成26年度定期監査の監査報告があり議事に入った。

議事は伊藤会長が議長となり、第1号議案の1案件を上程し、事務局からの内容説明を行い原案通り承認可決された。

議事終了後、菅原参与から『宮城県農地集積アクションプランの概要』の説明と、事務局から会員代表者の変更、平成26年度各種表彰受賞者の報告等があった。

更に、その他の事項として①土地改良基金の利用方法について、②平成25年度品質管理分析報告について、③水土里情報システムの加入状況について、④業務受託料基準表について等々を説明し、理事会の一切を終了した。

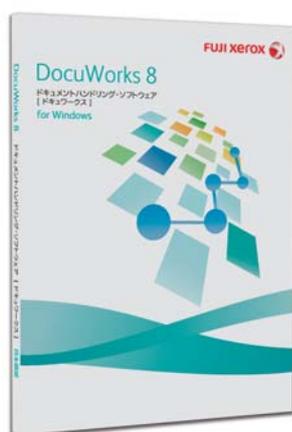
なお、当日の提出議案は次のとおり



平成26年度 第2回理事会

第1号議案 平成26年度一般会計収入支出補正予算の専決処分に係る承認について

FUJI xerox 



電子文書と紙文書を
一元管理。

ドキュメントハンドリング・ソフトウェア

DocuWorks 8

<http://www.fujixerox.co.jp/>

XEROX、およびそのロゴと“コネクティング・シンボル”のマークは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

〒980-0022 宮城県仙台市青葉区五橋1-1-23 カメイ五橋ビル TEL 022-221-2131 <http://www.fujixerox.co.jp/myx/>

富士ゼロックス株式会社

富士ゼロックス宮城株式会社



第37回全国土地改良大会山梨大会が 開催される



山梨大会式典



主催者挨拶（全国水土里ネット野中会長）

去る10月30日（木）「**かけがえのない農業を次世代へ水土里^{みどり}育む土地改良**」をテーマに、「第37回全国土地改良大会山梨大会」が山梨県甲府市の山梨県立産業展示交流館「アイメッセ山梨」を会場に、全国水土里ネット・水土里ネット山梨主催、農林水産省・山梨県・山梨県市長会等の後援で開催された。

大会当日は、全国各地より約3,600名の水土里ネット関係者及び農業農村整備事業関係者が出席し、来賓には小泉昭男農林水産副大臣、横内正明山梨県知事、棚本邦由山梨県議会議長を迎え、水土里ネット山梨の保坂武副会長の開会宣言並びに水土里ネット山梨の白倉政司会長の挨拶で式典が始まった。

式典では主催者を代表して、野中広務全国水土里ネット会長が挨拶を述べ、横内正明山梨県知事、棚本邦由山梨県議会議長から歓迎の言葉など開催にあたってのお礼等を頂いた。さらに来賓の小泉昭男農林水産副大臣より祝辞を頂き、その後土地改良事業功績者表彰式が行われ、本県からは本会理事である柴田町土地改良区大沼喜昭理事長が農林水産省農村振興局長表彰、本会監事である石巻市稲井土地改良区三浦敏壽理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞した。

続いて、農林水産省農村振興局小林祐一次長より「東日本大震災からの復旧・復興」・「農業農村整備事業の展開方向」並びに「まとめ－農政改革と土地改良区－」について基調講演が行われた。

その後「東日本大震災の復旧・復興状況」について、被災3県の水土里ネット（岩手県・宮城県・福島県）より基調報告が行われた。本県からは、本会の鈴木技監が「大震災の災害査定における水土里情報システムの活用事例について」説明を行った。



水土里ネットみやぎ鈴木技監の基調報告「大震災の災害査定における水土里情報システムの活用事例について」

今回の全国大会には、本会の三品副会長を始め宮城県・土地改良区・水土里ネットみやぎより総勢46名が参加した。

大会会場には「東日本大震災の復旧・復興パネルコーナー」・「再生可能エネルギーに関するパネルコーナー」等のブースが設置され、多くの大会参加者の関心を集めていた。



式典会場前にて



農林水産省農村振興局長表彰を受賞した
柴田町土地改良区 大沼理事長（左から2番目）



全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受賞した
石巻市稲井土地改良区 三浦理事長（左から2番目）

大会2日目の10月31日（金）には、山梨県北杜市、韮崎市で事業視察が行われ、本会では白州地区（耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業）、明野地区（畑地帯総合整備事業）、永井原地区（農村地域新エネルギー利活用推進事業）、日之城地区（畑地帯総合整備事業）を視察した。山梨大会期間中は天候に恵まれ、無事大会の一切を終了した。

また、来年の第38回全国土地改良大会の開催地は青森県と報告された。（平成27年10月15日開催予定）



事業視察

白州地区（耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業）



事業視察

明野地区（畑地帯総合整備事業）
永井原地区（農村地域新エネルギー利活用推進事業）

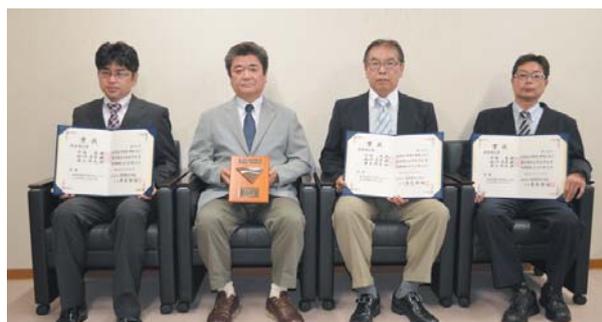
平成26年度 農業農村工学会賞 (優秀報文賞) 授与式が開催される ～本会水土里情報センター 3名が「優秀報文賞」を受賞～

去る8月26日(火)、新潟県新潟市の朱鷺メッセ2階メインホールにおいて、平成26年度農業農村工学会学術賞授与式が開催され、本会から3名が優秀報文賞を受賞し、農業農村工学会会長より賞状と副賞の楯が授賞された。

この受賞は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、甚大なる津波被害を受けた宮城県内の農地・農業施設の災害復旧工事を迅速に実施するため、水土里情報システムを活用して災害査定を行い、通常では成し得ない膨大な件数を、短期間に終えた取り組みが評価され、優秀な報文業績であるとして優秀報文賞を受賞した。

報文業績内容については次のとおり。

1. 水土里情報システムで作成した津波浸水区域をもとに現地調査を行い、土砂堆積区域、塩害区域を判別し、更にシステムの農地情報と突合し、農地災害査定資料に活用した。
2. 過去に例を見ない大きな面積に亘る災害であるにもかかわらず、査定期間が限られており、担当者も大幅に不足するなかで、モデル地区をもとに作成した標準断面方式の導入により設計図書作成の大幅な省力化を図った。
3. 水土里情報システムは、災害査定以外にもガレキの一時置き場の選定、水稻作付け可能区域の判定資料、地盤沈下に伴う高潮浸水想定区域のシミュレーションなどにも活用し、同システムの農地情報を最大限に利活用して取り組んだ。



優秀報文賞を受賞した本会職員



賞状と副賞の楯を授賞

【優秀報文賞 受賞者】

宮城県土地改良事業団体連合会 (水土里ネットみやぎ)

技術部	専門監	千田 宏
〃	水土里情報センター 技術主幹	佐々木清美
〃	水土里情報センター 技術主査	井上 順史



第19回七夕まつり

こどもに夢を

「復興の風になろう！ 水土里の笑顔」

去る8月6日～8日の3日間にわたり、東北農政局、宮城県、水土里ネットみやぎの主催による「第19回七夕まつり“こどもに夢を”」を、仙台市役所前の勾当台公園市民広場において開催した。このイベントは、会場を訪れる多くの一般の方々に、農業や農村の果たす役割や機能を知ってもらうために平成8年度から実施しており、今年度で19回目の開催となった。

今年は、東日本大震災からの復旧・復興の再生期を迎え、その状況を多くの方々に知っていただきたいという思いから、「復興の風になろう！ 水土里の笑顔」をサブテーマとし、東北農政局、宮城県、水土里ネットみやぎの各ブースごとに、東日本大震災の復旧パネルや農地整備事業に関するパネル、第1回みやぎのふるさと農美里フォトコンテスト入賞作品のパネルの展示や農業・農村の持つ多面的機能の紹介などを行った。

水土里ネットみやぎのブースでは、巨理土地改良区の協力で毎年恒例になっている「ザリガニ釣り体験コーナー」に、たくさんのお子どもたちが絶えず来場し大盛況であった。また、今年はタブレット端末を使った「水のみち」大辞典ゲーム体験コーナーを設置し、小学校低・高学年や中学生を中心に多くのお子どもたちが、農業・農村に関するクイズに熱心に取り組み、問題に正解するたびに喜びの声を上げていた。

七夕まつり期間中は天候に恵まれたが、最終日は午後から猛烈な雷雨に見舞われた。3日間にわたり、来場していただいた多くの方々に様々な農業・農村に関する体験コーナーを見て触れていただき、農業や農村が果たす役割、農業農村整備事業について知っていただくことができた実感した。



むすび丸もザリガニ釣り体験



生きものふれあいコーナー



「水のみち」大辞典、アプリケーションゲームコーナー



小水力発電コーナー



現場技術体験コーナー（8日のみ）



豆つかみゲームコーナー

『疏水フォーラム i n 大崎2014』が開催される

去る10月8日（水）～9日（木）の2日間にわたり、大崎市にある「アインパルラ浦島」において、水土里ネット大崎等が主催する『疏水フォーラム i n 大崎2014 ～みんなでつなぐ地域の疏水～』が開催され、宮城県内外から約260名の参加のもと、盛大に開催された。

疏水フォーラムは、疏水の役割・機能を広く一般市民に発信し、疏水を多くの人の手で守り引き継いで行くことが出来るよう、情報の交換・発信等を行うことを目的に平成18年度から始まり今回で9回目を数える。

初日のフォーラムでは、「地域を創った命の水を未来に引き継ぐために」と題して、全国農村振興技術連盟委員長の林田直樹氏より先人たちが築いてきた疏水の恵を次世代に引き継ぐために何をすべきか等についての基調講演の後、「内川と伊達政宗」と題して、岩出山郷土史倶楽部会長の穴戸宏至氏からの講演、引き続き、内川ふるさと保全隊長の真山智氏から「内川の清流保護活動」の事例紹介があり、最後に国立科学博物館長の林良博氏（疏水百選選定委員長）がコーディネーターとなり、パネラーには前段の林田委員長及び真山保全隊長のほか、岩出山地区公民館長の千葉暢子氏並びにNPO法人あぐりねっと21理事長の加藤徹氏（本会理事）を加えた4名が当たり、「みんなでつなぐ地域の疏水」をテーマに疏水・内川を中心としてパネルディスカッションが行われ盛会の内に幕を閉じた。

翌日の9日には、現地視察研修として約90名の参加のもと、内川の水源地である岩堂沢ダム並びにその中流部の内川の疏水を視察、その後宮城県古川農業試験場において、米の品種改良等の研修を行い終了した。



菅原大崎土地改良区理事長の挨拶



パネルディスカッションの様子



現地視察研修 岩堂沢ダムの見学



現地視察研修 内川沿線の見学

「農業農村整備の集い」が開催される

去る11月25日（火）、東京都千代田区の砂防会館別館「シェーンバッハ砂防」において、全国から農業農村整備事業関係者700余名が参集し、全国土地改良事業団体連合会主催による「農業農村整備の集い」が、多数の国会議員のご臨席のもと盛大に開催された。

はじめに、野中広務全国水土里ネット会長が、平成26年度予算、補正予算について最大限のご支援をお願いしたいと挨拶され、来賓として出席された小泉昭男 農林水産副大臣、石破茂内閣府特命担当大臣（国家戦略特別区域担当）、二階俊博自由民主党総務会長、稲田朋美同政務調査会長より祝辞が述べられた。

続いて、農林水産省農村振興局の三浦進局長より我が国の農政等をめぐる状況、並びに平成27年度予算概算要求について情勢報告があった。

その後、2県（秋田県・兵庫県）からの事例発表があり、最後に9項目からなる要請と補正予算に関する緊急要請が提案され、全会一致で採択し集いを終了した。

また、同日は衆議院が解散だったため、宮城県選出の参議院議員に対し、農業農村整備の一層の推進について、本会参加者全員による要請活動も実施された。



野中全国水土里ネット会長の挨拶



農業農村整備の集いの様子

みやぎ農業農村 復興米の新米試食会を開催

去る10月21日、農林水産省内にある「消費者の部屋」で開催された宮城県主催の「みやぎの農業農村復旧復興展」において、「みやぎの農業農村復興米の新米試食会」を開催した。

宮城県は、10月20日（月）から24日（金）まで「みやぎの農業農村復旧復興展」を開催し、東日本大震災からの農地や農業用施設などの復旧・復興の現状をパネル展示により伝えた。今年「宮城県震災復興計画」の再生期一年目に当たることから、本会としても復興に向けて全国からよせられた支援への感謝を伝えるために、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた沿岸部で4年ぶりに収穫された新米による試食会を併催したものである。

試食会では、名取土地改良区より提供された名取市下増田地区の「ササニシキ」と鳴瀬土地改良区より提供された東松島市奥松島地区の「ひとめぼれ」のおむすびが並べられ、会場を訪れた多くの見学者に振る舞われた。

会場では、新米を提供していただいた名取土地改良区理事長や鳴瀬土地改良区理事長をはじめ、被災した沿岸部の土地改良区の理事長が農地の復旧や米の作付け、収穫状況についての説明にあたった。

西川公也農林水産大臣、阿部俊子農林水産副大臣、小泉昭男農林水産副大臣を始め、多くの関係国会議員や三浦農村振興局長など、農林水産省の関係者も次々に視察に訪れ、復興状況のパネルを見ながら関係者の説明を受け、2種類の新米のおむすびを試食し、「うまい」と顔をほころばせていた。



復興米の新米試食会（西川農林水産大臣）



収穫状況の説明をする沿岸部の土地改良区理事長さん方



復興米の試食用おむすび

平成26年産新米（復興米）試食会を開催

本会では、去る12月8日（月）、本会館5階大会議室において、水土里ネットみやぎ主催による「平成26年産新米（復興米）試食会」を開催し、東北農政局、復興庁宮城復興局、宮城県農林水産部、県内土地改良区理事長など関係者約50名が参加した。

この新米（復興米）試食会は、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県沿岸部の農地の復旧・復興を広くPRするため、除塩対策等を行なった田んぼから、震災後4年ぶりに収穫された新米の試食会を行ったものである。

始めに、水土里ネットみやぎ伊藤康志会長より、「東日本大震災から3年9ヶ月余りが経過し、国並びに宮城県等関係各位のご支援のもと、除塩事業をはじめとする復旧・復興整備事業が進捗したことにより、着実に復旧・復興が進んでおります。新米の復興米を収穫でき、こうして味わえる喜びを分かち合うとともに、一日も早い全面復旧・復興を願いながら試食していただければと思います。」と挨拶を申し上げます。

次に、東北農政局佐々木康雄局長（代理：下村聡次長）、復興庁宮城復興局梶原康之局長（代理：皆川猛次長）、宮城県村井嘉浩知事（代理：宮城県農林水産部菅原喜久男次長）より祝辞を頂き、被災した土地改良区を代表して、気仙沼市にある階上大谷土地改良区小野武久理事長より感謝と御礼の挨拶を行った。

試食会では、2つの地域で収穫されたお米（名取土地改良区（ササニシキ）・階上大谷土地改良区（ひとめぼれ））を各土地改良区より提供して頂き、弁当・おにぎりとして出席者に振る舞った。

試食した関係者は、「とても美味しいです。震災直後の農地の状況を思い返すと、4年振りに新米が収穫されて食べられるまでに復興したのは非常に感慨深いです。」と思いを語った。最後に、水土里ネットみやぎ三品幸徳副会長から閉会の挨拶を頂き、新米（復興米）試食会の一切を終了した。



水土里ネットみやぎ伊藤会長の開会挨拶



お弁当を試食する伊藤会長・菅原宮城県農林水産部次長



新米（復興米）試食会の様子



試食会で提供されたお弁当・おにぎり

平成26年度 土地改良区役員研修会を開催

去る12月4日(木)～5日(金)の2日間、大崎市鳴子温泉の「鳴子観光ホテル」において、県内45の土地改良区理事・監事139名の参加のもと、平成26年度土地改良区役員研修会を開催した。

この研修会は、土地改良区役員の資質向上を図り、円滑な組織運営に資するための情報提供を目的に毎年開催しているものである。

初日に行われた賦課金滞納整理の実務についての研修では、実際の調査や差押えの実務などについて講義が行われ、熱心な質疑応答がなされ、関連する意見も活発に出された。

2日間の研修は、いずれも土地改良区運営にとって参考となる貴重な研修となった。

日	研修内容	講師名
4日 (木)	賦課金滞納整理の実務について	宮城県 総務部 税務課徴収特別指導員 照井 透
	土地改良区役員(理事・監事)の責務について	東北農政局 農村計画部土地改良管理課土地改良指導官 岸波 智樹
	宮城県における農業農村の復旧復興状況	宮城県 農林水産部農村振興課技術副参事 佐々木久則
5日 (金)	人間関係を良くするためのコミュニケーション研修	東北コミュニケーション研究所 所長 高橋 利夫



高橋専務理事の挨拶



役員研修会の様子

平成26年度 土地改良区職員研修会を開催

去る12月17日(水)午前10時30分から、本会会館5階大会議室において、県内33の土地改良区職員47名の参加による平成26年度土地改良区職員研修会を開催した。

この研修会は、土地改良区職員の資質向上と、近年問題となっている課題等について情報提供することを目的に毎年開催しているものである。

研修会では、下表の研修内容について各行政機関の担当官から熱心な講義が行われ、また質疑応答では、具体的な質問や要望が出され、有意義な研修となった。

研修内容	講師名
賦課金滞納整理の実務について	宮城県 総務部 税務課徴収特別指導員 照井 透
宮城県における農業農村の復旧復興状況について	宮城県 農林水産部農村振興課技術副参事 佐々木久則
土地改良区の組織運営について	宮城県 農林水産部 農村振興課指導班 主査 畠山由貴子



高橋専務理事の挨拶



職員研修会の様子

ISO9001：2008 更新審査が実施される

去る10月23日（木）～24日（金）の2日間にわたり、認証機関である（一般財団法人）日本品質保証機構（JQA）による、ISO9001：2008規格に基づく品質マネジメントシステムの継続的な適合性及び有効性、並びに認証の範囲に対する適切性についての更新審査が実施された。審査は2つのチームにわかれ、本部（チーム1）及び古川事業所（チーム2）で行われた。

平成15年2月に取得以来11年が経過し、これまで3回の更新を経て今回の審査で通算19回目となり、本会のプロセスであるQMS、契約、設計、換地、購買、調査・監理、内部監査、教育・訓練の各プロセスについて審査を受けた。

その結果、今回の更新審査では適用規格（ISO9001：2008）の中で改善指摘事項はなく、登録されている品質マネジメントシステムは継続して有効であると判定された。



管理責任者インタビュー



企業内見学（3階総務部）



現地審査の様子（多賀城地区）

平成26年度消火訓練並びに避難訓練（本部）を実施

去る10月28日（火）、本会館において職員を対象とした消防訓練並びに避難訓練（本部）を実施した。

3階給湯室より火災が発生したという想定で、火災感知器発生後の場内放送及び通報連絡・避難誘導・初期消火までの一連の流れを実際に行った。その後1階駐車場にて、本会館の管理をしているセコム株式会社の職員より消火器及び消火栓の取扱説明を受け、訓練用消火器を使用したの消火訓練を体験した。

消火訓練後には、仙台市青葉消防署より借用した「火災・自然災害」のDVDを視聴し、災害に対する備えの重要性を再確認した。

災害はいつ、どの様な形で起こるか分からない。いざという時に焦らず適切な行動を取るために、今後もこのような訓練は大切だと職員も感じていた。



消火栓の取扱説明を受ける水土里ネットみやぎ職員（本部）



火災・自然災害のDVDを視聴する水土里ネットみやぎ職員（本部）

祝 加美郡色麻町色麻土地改良区・加美郡色麻町吉田土地改良区合併予備契約調印式が開催される

～新設合併名称：色麻土地改良区～

去る8月1日（金）加美町にあるJA加美よつば「よつば館」において、加美郡色麻町色麻土地改良区と加美郡色麻町吉田土地改良区の「合併予備契約調印式」が開催された。平成25年10月18日に「色麻地区土地改良区統合整備推進協議会」を設立し、早期合併へ向けて検討を重ねてきたもので両土地改良区の合併は、行政との連携強化、将来の農業農村整備事業の計画的推進、施設管理の一元化や適正化などを行うための運営基盤強化を目的としたものである。

調印式には、両土地改良区の役職員並びに関係機関等70名が出席し、本会からも伊藤康志会長（代理：佐藤技監）並びに高橋古川事業所長が出席した。式典では、早坂勝一協議会会長（加美郡色麻町色麻土地改良区理事長）の式辞で始まり、堀籠勝恵協議会委員（加美郡色麻町色麻土地改良区副理事長）による経過報告の後、「加美郡色麻町色麻土地改良区」が「加美郡色麻町吉田土地改良区」を吸収合併とすることなどを盛り込んだ「合併予備契約書」に両土地改良区の理事長及び立会人として伊藤拓哉色麻町長並びに宮崎博之宮城県北部地方振興事務所長が調印した。最後に、早坂利悦協議会副会長（加美郡色麻町吉田土地改良区理事長）の閉会挨拶で調印式を閉じた。今後は、平成27年4月1日の合併認可による1,871haの土地改良区設立を目指す。



合併予備契約調印



固い握手



伊藤拓哉色麻町長の祝辞



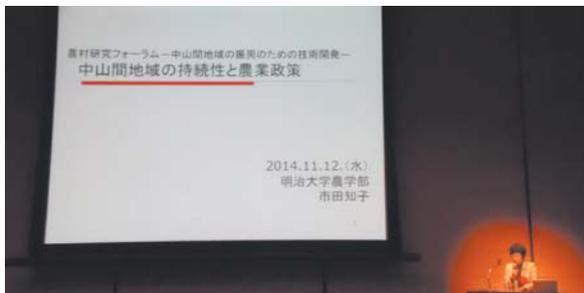
閉会（万歳三唱）

土地改良区名	加美郡色麻町色麻土地改良区	加美郡色麻町吉田土地改良区	計	
土地改良区の前身等	—	—		
所在地・電話	色麻町四竈字北谷地41 0229-65-4323	色麻町吉田字内屋敷24 0229-65-3472		
設立年月日	昭和47年2月16日	昭和39年1月31日		
認可番号	宮区第312号	宮区第288号		
理事長名	早坂勝一	早坂利悦		
関係市町村	色麻町・加美町・大衡村	色麻町		
地区面積	1,790ha	81ha	1,871ha	
組合員数	1,025人	62人	1,087人	
総代	44人	—	44人	
役員数	理事数	12人	5人	17人
	監事数	3人	2人	5人
職員数等	5人	—	5人	
現在の事業内容	県営ほ場整備事業維持管理事業	維持管理事業		

平成26年度宮城県中山間地域活性化推進協議会 担当職員研修会が開催される

去る11月12日（水）～13日（木）の2日間、東京都千代田区外神田の「秋葉原コンベンションホール」において、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構主催の「中山間地域の振興のための技術開発－農村研究フォーラム2014に宮城県中山間地域活性化推進協議会の会員市町村担当職員等6名が参加した。

フォーラムでは、「中山間地域の持続性と農業政策」と題して、明治大学農学部市田知子教授が基調講演を行い、続いて他県土地改良区職員による現場報告等の講演があり、中山間地域が抱えている課題・取り組み等を視聴した。また、フォーラム終了後には会員相互の連携強化・情報の収集・交換・共有化等を図るため、参加した会員での情報交換会も行われた。



市田明治大学農学部教授の基調講演



研修会の様子

平成26年度 農業集落排水事業推進研修会が開催される

去る12月2日（火）、東京都港区新橋の「航空会館5階」において、平成26年度農業集落排水事業推進研修会が開催され、宮城県農業集落排水事業推進協議会より会員等5名が参加した。

研修会では、「今後の農業集落排水事業の推進方針について」と題して、農林水産省農村振興局整備部佐藤修児農村整備官補佐が講演を行い、続いて沖縄県と青森県の土地改良事業団体連合会から事例発表が行われた。

最後に、研修会を通しての質疑応答があり、各県・各県土地改良事業団体連合会から、農業集落排水施設の統廃合のやり方について、活発な意見交換が行われ研修会は終了した。



野上全国農業集落排水事業推進協議会長の挨拶



研修会の様子

宮城県農業用水利施設小水力等発電推進協議会 平成26年度第1回総会が開催される

去る11月27日（木）宮城県土地改良会館5階大会議室において、宮城県農業用水利施設小水力等発電推進協議会の平成26年度第1回総会が開催された。

当日は定刻午後2時に開会され、菅原会長（宮城県農林水産部次長）の挨拶の後議事に入った。

議事は規約の定めにより会長が議長となり第1号から第4号までの4案件が審議され、全議案とも原案のとおり承認可決された。特に、第3号議案では規約の一部改正、第4号議案では事務取扱規程の制定が可決され、平成27年度から協議会が補助事業の事業主体となる体制が整備された。



平成26年度第1回総会の様子

また、議事後の意見交換では、宮城県農村振興課及び水土里ネットみやぎより次の項目について説明があった。

- ①小水力発電及び太陽光発電に係る可能性調査について
- ②固定買取価格制度と小水力等発電における補助制度との調整について
- ③小水力等発電施設の導入支援事業及び施設整備の助成制度について

なお、当日の提出議案は次のとおり。

－提出議案－

- 第1号議案 平成25年度活動報告の承認について
- 第2号議案 平成26年度活動計画（案）の承認について
- 第3号議案 規約の一部改正について
- 第4号議案 事務取扱規程の制定について

平成26年 秋の叙勲 ～丸山與志雄氏が「旭日単光章」を受章～

去る11月3日付で、内閣府から平成26年秋の叙勲受章者が発表され、本会関係者では、丸山與志雄氏（元 登米市東和町土地改良区理事長）が土地改良事業功勞により旭日単光章を受章されました。

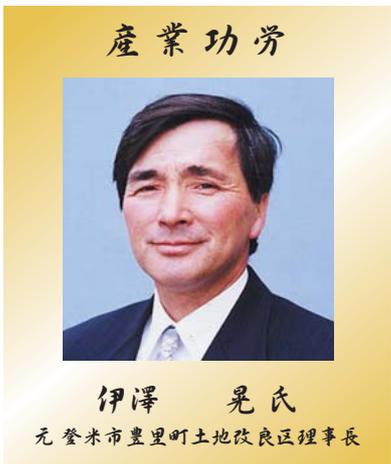
このたびの受章を心からお慶び申し上げ、益々のご活躍を祈念申し上げます。



平成26年 文化の日表彰 ～大和田清一氏並びに伊澤晃氏が「産業功勞」を受賞～

宮城県は平成26年文化の日表彰受賞者を発表し、本会関係者では産業功勞として、大和田 清一氏（大和町土地改良区理事長）並びに伊澤 晃氏（元 登米市豊里町土地改良区理事長）のお二人方が受賞されました。

このたびの受賞を心からお慶び申し上げ、益々のご活躍を祈念申し上げます。



東日本大震災からの早期の再生・復興と 平成27年度農業農村整備予算の確保に関する要請活動の実施 ～東北農政局、宮城復興局、宮城県へ予算確保を要請～

本会では、去る10月20日（月）と21日（火）の両日、東日本大震災からの早期の再生・復興と平成27年度予算の確保に関する要請活動を実施した。

20日には東北農政局、宮城復興局、宮城県を訪問し、宮城復興局には平成27年度の予算の確保について、東北農政局と宮城県には平成27年度の予算の確保と併せて平成26年度追加予算についても要請を行った。

本会からは三品副会長、佐藤理事並びに高橋専務理事が出席した。

また、21日には津波被害区域の11土地改良区の理事長と高橋専務理事が上京し、復興庁、農林水産省並びに本県選出国會議員に対して、それぞれ平成27年度当初予算の確保と平成26年度追加予算に関して要請を行った。



佐々木東北農政局長への
要請書提出



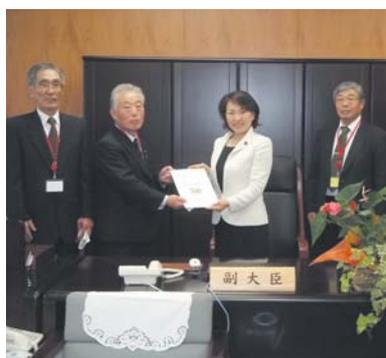
皆川宮城復興局次長への
要請書提出



吉田宮城県農林水産部長への
要請書提出



竹下復興大臣への要請書提出



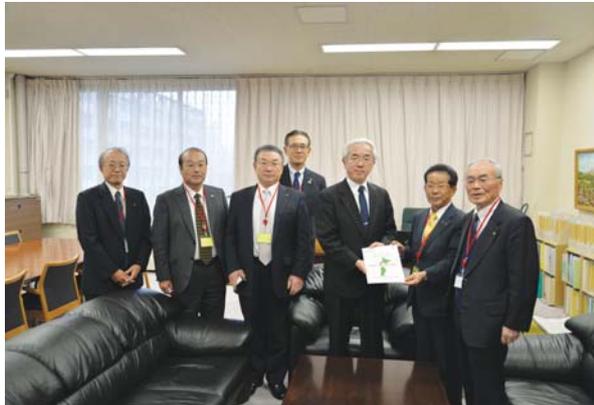
阿部農林水産副大臣への
要請書提出



西村国土交通副大臣兼内閣府
副大臣兼復興副大臣への要請書提出

農業農村整備関係予算の確保並びに 東日本大震災からの再生・復興に関する要請活動の実施

～復興庁、農林水産省、財務省へ予算確保を要請～
東北・北海道土地連絡協議会による要請活動



三浦農村振興局長への要請書提出



竹下復興大臣への要請書提出

去る11月25日（火）～26日（水）の2日間にわたり、東北・北海道土地連絡協議会（会長：及川岩手県土地連会長）による要請活動を実施した。

当日は各県の会長、副会長、専務理事などが復興庁、農林水産省及び財務省に出向き、農業農村整備事業予算の必要額の確保並びに東日本大震災からの再生・復興に関して要請を行った。

また、各県選出国會議員（参議院議員）に対しても各道県ごとに同様の内容について要請を行った。

要請内容については次のとおり。

農業農村整備関係予算の確保並びに 東日本大震災からの再生・復興に関する要請書

《農業農村整備関係》

1. 新たな農業政策の実現に向けた農業農村整備関連予算の確保について
2. 環太平洋経済連携協定（TPP）合意への慎重な対応について
3. 農地・水・環境保全向上対策地域協議会の位置づけの明確化について
4. 水土里情報システムの更なる活用促進対策について
5. 災害復旧事業の弾力的な運用について
6. 再生可能エネルギーに関する制度運用の改善について
7. 土地改良区の果たす新たな役割の明文化について

《東日本大震災関係》

1. 東日本大震災復興交付金の継続について
2. 農村地域復興再生基盤総合整備事業の予算確保について
3. 福島再生加速化交付金による農業用ダム・ため池の放射性物質対策について



直轄特定災害復旧事業「名取川地区」 排水機場ポンプ運転稼働式が開催 ～排水機場ポンプ運転稼働式が開催される～

去る10月2日（木）岩沼市下野郷字大瀬の（新）相の釜排水機場において、直轄特定災害復旧事業「名取川地区」排水機場ポンプ運転稼働式が開催された。

当日は、農林水産省東北農政局はじめ関係機関から約110名が出席し、本会からも高橋専務理事が出席した。

式典では、完成した排水機場の安全を祈願する神事が執り行われた後、名取土地改良区布田吉昭理事長が式辞を述べられた。続いて、米田博次東北農政局整備部長、吉田祐幸宮城県農林水産部長（代理：菅原喜久男農林水産部次長）、佐々木一十郎名取市長、菊地啓夫岩沼市長より祝辞が述べられた。

最後に、地元代表者として名取土地改良区今野慶一副理事長の謝辞により式典を閉会した。



名取土地改良区布田吉昭理事長の式辞



来賓代表によるポンプ運転式の様子

農山漁村地域復興基盤総合整備事業 「山元北部・磯・山元東部地区」の復興安全祈願式が開催 ～復興安全祈願式が開催される～

去る11月10日（月）亘理郡山元町高瀬のJAみやぎ亘理旧山下イチゴ集中選果場において、農山漁村地域復興基盤総合整備事業「山元北部・磯・山元東部地区」の復興安全祈願式が開催された。

当日は、関係機関から約50名が出席し、本会からも伊藤康志会長（代理：佐藤技監）が出席した。

復興安全祈願式では、本地区の地域農業の早期復興、工事の安全を祈願するための神事が執り行われた。

式典では、西村昭宏復興副大臣兼国土交通副大臣兼内閣府副大臣より祝辞をいただき、続いて施工業者を代表して株式会社佐藤建設佐藤善一代表取締役の挨拶、宮城県仙台地方振興事務所大内仁所長より事業概要の説明が行われた。最後に、齋藤俊夫山元町長の三本締めにより式典を閉会した。



復興安全祈願式の様子



鎌入れ式

農山漁村地域復興基盤総合整備事業 「七ヶ浜地区」の復興安全祈願式が開催 ～復興安全祈願式が開催される～

去る11月19日（水）宮城郡七ヶ浜町菖蒲田浜新小塚のほのぼの農園隣接地において、農山漁村地域復興基盤総合整備事業「七ヶ浜地区」の復興安全祈願式が開催された。

当日は、関係機関から約40名が出席し、本会からも伊藤康志会長（代理：佐藤技監）が出席した。

復興安全祈願式では、本地区の地域農業の早期復興、工事の安全を祈願するための神事が執り行われた。

式典では、施工業者を代表して株式会社深松組深松努代表取締役、宮城郡七ヶ浜町七ヶ浜土地改良区我妻周悦理事長の挨拶で始まり、宮城県仙台地方振興事務所大内仁所長（代理：井城克廣副所長）より事業概要の説明が行われた。続いて、来賓を代表して仁田和廣宮城県議会議員、寺澤正志宮城県議会議員より挨拶をいただき、最後に渡邊善夫七ヶ浜町長（代理：平正美副町長）の三本締めにより式典を閉会した。



復興安全祈願式の様子



鎌入れ式

SCIKISUI

エジェクター式真空ステーション

コンパクト真空井ユニット

真空管路

真空ステーション
道路下埋設が可能
(用地買収不要!)

真空式下水道

CP型ステーション

圧送管路

小規模集合処理施設などへ。

下水管用ポリエチレン管

コスト縮減と耐震化を同時に実現!

自然流下では整備が困難な地域に最適なシステム。

真空式下水道システムはこんな地域に最適です。

- ◆ 道路面より民家が低い地域
- ◆ 道路と民家の間に水路あり
- ◆ 道路下に大きな埋設物
- ◆ 路地が狭く深埋設できない

地震に強いライフライン / 街づくりに貢献する究極の管路システム

サイバックシステム

積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー 上下水道事業部 〒105-8450 東京都港区虎ノ門2丁目3番17号(虎ノ門2丁目タワー)

東北支店 官需バリューチェーン営業所 022(217)0607 東日本支店 官需バリューチェーン営業部 東京官需営業所 03(5521)0646 関東官需営業所 048(646)0160	中部支店 官需バリューチェーン営業所 052(957)5303 西日本支店 官需バリューチェーン営業部 近畿官需営業所 06(6365)4510 中・四国官需営業所 082(224)6219	九州支店 官需バリューチェーン営業所 092(271)1314 積水化学北海道(株) 営業本部 011(737)6330
--	--	--

ESLONTIMES on the Web
<http://www.eslontimes.com>



土地改良区の概要

本土地改良区は、宮城県南部に位置し、東部は阿武隈川山地の西麓丘陵地に接し、西部は白石市、南部は丸森町北部と東部、北部は柴田町に接し、中央に一級河川阿武隈川が流れ、角田市、丸森町に跨る標高7.20から28.00m間の地形で、耕地面積5,154haの地域である。用水の水源は阿武隈川及びため池に求めている。末端並びに高位部地区は幹線用水路及び排水路に堰上げして、ポンプによる2段揚水3段揚水を行いかんがいている。

排水は、地形的に自然排水及び機械排水により排水される。西部は江尻排水機場（62t/s・口径2,600m/m×4台+10t/s×1,600m/m）で阿武隈川に排水し、東部は中谷地排水機場（10t/s・口径1,500m/m×2台）他4排水機場で阿武隈川に排水している。また、平成7年に国営かんがい排水事業で完成した江尻排水機場は、平成9年から市町村営基幹水利施設管理事業を導入し、管理は角田市が事業主体となり、角田市と土地改良区は管理協定書に基づき操作・点検業務委託契約を締結し、農地を洪水の被害から守り農業経営の安定を図ることと併せて角田市民の生命と財産を守っている。水田の整備状況は昭和48年に県営ほ場整備事業が採択され、平成20年には県営担い手育成基盤整備事業が完了した。なかでも枝野地区のほ場整備事業は、土地改良区が地区のアグリセンターの取り組みを支援しながら、角田市農業振興公社が行う農地保有合理化事業を活用し担い手農家及び担い手以外の農業者、出し手農家が一括して公社に農地を貸し出し、186haの面的集積を行い農業経営の安定を図っている。

平成12年度から国営造成施設管理体制整備促進事業に取り組み、推進活動においては、土地改良区で管理している農業水利施設の持つ多面的機能を市内の小学生を対象に出前授業並びに機場等の施設見学会を開催し啓発活動を行っている。また、企業・団体等と協定を締結し施設の点検及び環境美化活動も行っている。

組織の沿革

本土地改良区の前身は、昭和24年土地改良法制定により、昭和26年内川尾袋川土地改良区設立、昭和27年角田上水土地改良区設立、昭和47年5月両改良区の合併による角田土地改良区設立、平成12年5月伊具郡丸森町館矢間土地改良区を吸収合併した。昭和27年伊具郡青木土地改良区設立、同年沼尻土地改良区設立、昭和34年8月両土地改良区が合併し角田隈東土地改良区

あぶくま川水系角田地区土地改良区の概要

所在地	角田市角田字中島下458番地
設立年月日	平成26年4月1日
関係市町名	角田市、丸森町
受益面積	5,154ha
組合員数	5,360人
役職員数	理事14人 監事3人 職員18人



設立、昭和47年6月伊具郡丸森町小斎土地改良区を吸収合併した。平成26年4月角田土地改良区と角田隈東土地改良区が合併し、新生「あぶくま川水系角田地区土地改良区」として運営を行っている。合併に至る経緯は、平成19年8月29日角田地区土地改良区統合整備研究会設立、平成24年3月26日角田地区土地改良区統合整備推進協議会設立、平成25年2月14日合併予備契約調印式、平成25年4月14日あぶくま川水系角田地区土地改良区設立委員会設立、平成26年1月21日宮城県知事へ合併認可申請書提出、平成26年4月1日付け、新設合併の認可を受けた。5月25日執行の総代選挙により総代60名を決定し、6月19日執行の第1回臨時総代会で新役員17名（理事14名、監事3名）の選任が議決され、6月27日の理事会、監事会により新執行体制が整い、新たなスタートをすることとなった。



合併予備契約調印式



第1回臨時総代会の様子



国営江尻排水機場



中谷地排水機場



県営枝野地区ほ場整備全景



小学生による施設見学会（江尻排水機場）

多面的機能支払交付金

浅部農地・水・環境保全組織（登米市）

私達「浅部農地・水・環境保全組織」は、宮城県の北部に位置し、栗原市、石巻市、本吉郡、北は岩手県に接し、古くから米の名産地「献上米の里」として知られている地域です。米の品質も「特Aランク」の評価を頂いております。平成21年3月22日に三陸自動車道登米ICが開通して以来交通量が増加し、登米市の物流の玄関口ともなっております。

組織の結成は、平成24年度より自治体組織をもって結成し、構成員は農家・非農家70戸、団体組織4組織で協定農用地、田地 77.09ha、畑地 2.71haの地区で活動を行っています。

継続的保全活動を目指して、皆で楽しみながら無理なく活動することをモットーとし、個人では手の届かなかった箇所の保全にも力を入れること、これらを組織の共同活動の方針として位置づけ作業をしております。

作業は出来るだけ全構成員で協力して行えるよう計画し、作業時間も日曜日の早朝2時間程度、それ以上の時間が必要となる場合は、予め2回に分けて実施する計画を立て、身体的、精神的にもムリの無い活動を心がけております。そのことにより、江払い、草刈等の重労働においても、構成員の85%以上の協力を頂いております。

この活動も3年目となり、構成員の皆さんも農地・水・環境保全に対する意識・取組が変わってきており、今まで気にもかけなかった事が、“人に見られる”という意味合いから、自分の田畑の保全部と維持に意欲がわくようになりました。

今後の課題としては、農業従事者の高齢化に伴い作業に参加でき兼ねる方、個々の農地に対し時間的にも手が回らない方の農地の保全部をどのように行っていくのかが課題となっております。

今後とも三陸道登米IC周辺の地区として、お越しの皆さんに、我々の美しい田園風景を見て頂けるよう努力して参ります。



会 議



排水路・路肩草刈



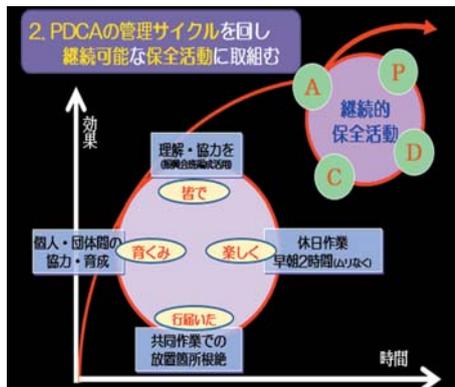
農道路路肩草刈



路肩モア刈込



排水路掘りこみ



セイタカアワダチ草駆除



花壇設置



荒地排水路の掘込み整理

排水路雑木の伐採



花の植付け

日本人が作った日本人のためのCAD

Bigvan a1-N11 CAD+土木オプションで広がる利用範囲！ 土木オプション

GPS位置情報が付加された写真を取り込み、撮影場所などを簡単に
特定した図面を作成することができます。

詳細は、当社ホームページへ <http://www.bigvan.co.jp/>

株式会社 ビッグバン 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-12 NKビル9F tel 03-3851-2227 fax 03-3851-2228

- ・GPS写真配置
- ・SIMAデータ
- ・SIMA-DM
- ・座標一覧
- ・クローンID
- ・法面記号
- ・土量計算
- ・面積計算
- ・土木ハッチング
- ・路面標識
- ・赤書き
- ・簡易断面
- ・トラバース/逆トラバース

測量の新時代！
モバイル・マッピング・システム

MMS でコストダウンと作業効率を向上

土地改良事業の基盤地図データの作成から、農道台帳、用排水施設アセットマネジメント、
田面高の調査など道路を走行するだけで必要な空間情報（3次元情報）を取得し、短工期
で高精度なデータをお客様に提供します。

株式会社パスコ 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡 2-2-11 問合せ：022-299-9522

PASCO
World's Leading Geospatial Group

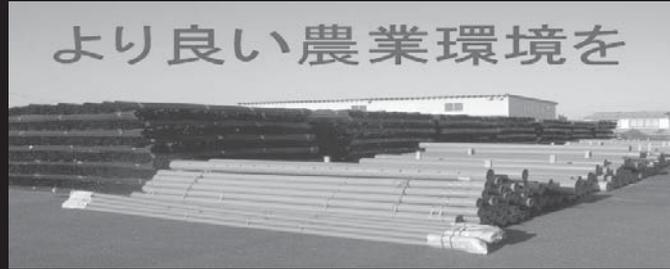


株式会社同和建材

〒989-6124
宮城県大崎市古川石森字天王山2-1
電話 0229-24-2755
FAX 0229-24-2756

- ☆ 農業用水資材販売
- ☆ 上水・下水道資材販売
- ☆ 暗渠排水資材販売
- ☆ 土木資材販売
- ☆ 各種2次製品販売

より良い農業環境を



農業農村整備事業の調査・測量・設計
総合建設コンサルタント

株式会社 加美測量設計事務所
代表取締役 佐々木 清則

〒981-4265
宮城県加美郡加美町字矢越191番地
TEL 0229-63-5461 FAX 0229-63-5467

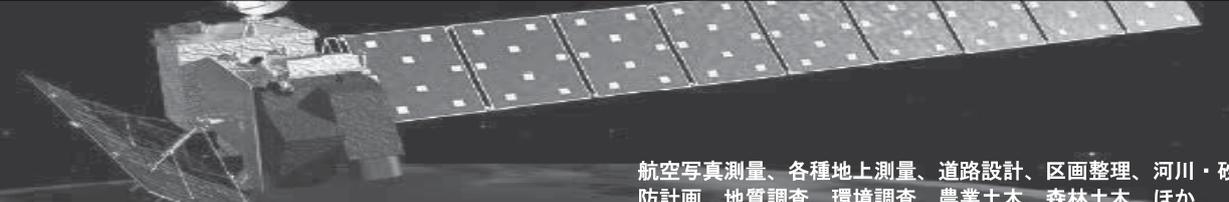
測 量 業：第(9)-8148号
建設コンサルタント：建23第7345号
補償コンサルタント：補21第4337号



航空写真測量、各種地上測量、道路設計、区画整理、河川・砂防計画、地質調査、環境調査、農業土木、森林土木 ほか

アジア航測株式会社

仙台市青葉区一番町 1-4-28 小松物産ビル 4F
TEL：022-216-3553/FAX：022-216-3573



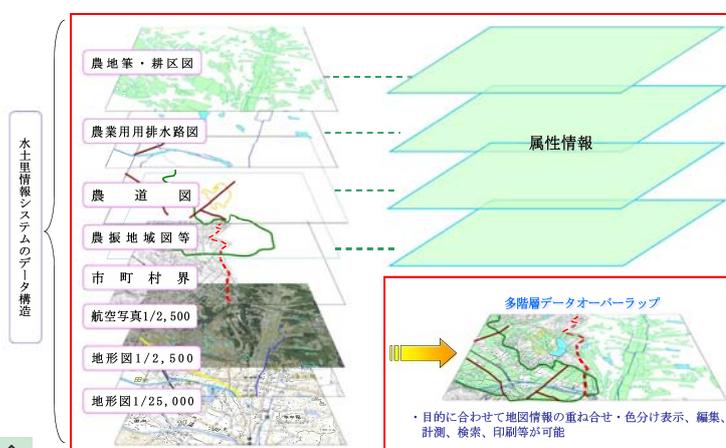
水土里情報システムについて

会員の皆様には日頃より、水土里情報システムへのご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、水土里情報システムにつきましては、平成26年4月1日より利用料金体系による本格運用を開始しています。現在の会員数につきましては、国・県・市町村・土地改良区・JA・独立行政法人等の35団体が利用しております。引き続き会員並びに関係団体の皆様のご理解とご利用をよろしくお願いを申し上げます。なお、ご不明な点・お気づきの点等がございましたら、水土里情報センターまでご連絡願います。

水土里情報システム利用料金表

利用面積区分	利用料金（税込み）
30,000ha以上	610,000円
10,000ha以上	460,000円
5,000ha以上	360,000円
3,000ha以上	260,000円
1,000ha以上	160,000円
500ha以上	100,000円
500ha未満	50,000円

水土里情報システムにおけるデータ構造



◇◇ 水土里情報システムの特徴 ◇◇

・農地などに関する図面と情報の一元管理、情報検索の迅速化

これまで紙や表形式のデータベースで管理していた各種多様な農地や営農等に関する情報を電子化して、コンピュータ上で一元管理することができます。必要な情報を必要なときに瞬時に引き出すことが可能となり、業務の効率化を図ることができます。

・農地に関する情報などを地図上で相互利用

水土里情報システムを活用することにより、個々の利用者が保有する農地情報を複数の利用者間で共同利用することもできます。

・農地情報をビジュアルに表示・加工

例えば農地の利用状況や耕作放棄地の分布状況などをビジュアルに表示することで、農地の集積計画の策定や耕作放棄地対策検討の効率化が図られます。また、農家の方々にも分かりやすい説明資料を作ることができます。

※あらかじめ登録されたユーザIDとパスワードを利用します。操作者ごとに閲覧、表示、加工などが行える情報の範囲を制限することにより情報のセキュリティはしっかり確保されています。

(問合せ先) 技術部水土里情報センター TEL022-263-5810

◆◆本会役員の就退任関係◆◆

【宮城県土地改良事業団体連合会】

理事 亀谷久雄（あぶくま川水系角田地区土地改良区理事長） 就任【H26.8.28】
 理事 及川俊榮（北上川沿岸中田地区土地改良区理事長） 就任【H26.8.28】

◆◆本会会員代表者の就退任関係◆◆

【大河原支部管内】

◇七ヶ宿町

梅津輝雄 ⇒ 小関幸一町長 就任【H26.9.24】

【北部支部管内】

◇真坂土地改良区

熱海道良 ⇒ 佐藤 榮 理事長 就任【H26.8.30】

仙台市泉土地改良区 伊藤 孝 理事長急逝

仙台市泉土地改良区伊藤孝理事長（71歳）が11月28日午後8時57分、ご逝去されました。
 伊藤理事長は平成10年4月に仙台市泉土地改良区理事に就任し、平成24年4月に副理事長就任、平成26年4月に5期目の理事就任と同時に理事長に就任されました。
 伊藤理事長は資性温厚にして、誠実、品行方正なる性格を身上とし、組合員より評価も高く、地元の土地改良事業に貢献され、その他公職としては仙台市泉消防団団長を務め、平成26年春の叙勲では瑞寶雙光章を受章され、去る12月3日に仙台市泉区で執り行われた葬儀告別式には多くの参列者が訪れました。土地改良事業に携わるものにとって今回の訃報は心痛の極みであります。

ここに謹んで伊藤理事長のご冥福をお祈りいたします。

連合会日誌

	開催日時	主催者名	行事名	開催場所
8月	1日	色麻地区土地改良区統合整備推進協議会	加美郡色麻町色麻土地改良区・加美郡色麻町吉田土地改良区 合併予備契約調印式	J A 加美よつば総合催事ホール「よつば館」
	6日～8日	東北農政局・宮城県・本会	第19回七夕まつり	勾当台公園市民広場
	7日	宮城県農林水産部	マラウイ国農業水利技術研修に係るセミナー	本会5階大会議室
	22日	宮城県農林水産部	平成26年度災害復旧事業研修会及び農村地域防災減災事業担当者会議	本会5階大会議室
	26日	公益社団法人農業農村工学会	平成26年度農業農村工学会大会講演会授与式、交流会	新潟県新潟市「朱鷺メッセ」
9月	28日	本会	平成26年度第1回臨時総会、講演会	本会5階大会議室
	29日	迫川上流地区管理体制整備推進協議会	第15回伊豆野堰祭	伊豆野せせらぎ公園
	3日～4日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会	平成26年度事務主任者会議	岩手県遠野市、陸前高田市
	11日	全国土地改良事業団体連合会	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者会議研修会	東京都千代田区「全国都市会館」
10月	17日	大和町土地改良区	暗渠排水工事着手安全祈願祭	桧和田排水機場
	24日～26日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会	平成26年度第2回事務責任者会議	北海道旭川市「十勝ガーデンホテル」
	2日	仙台市大倉川土地改良区	総合的な学習の地域活動	仙台市立大沢小学校「学童農園」
	2日	名取土地改良区	直轄特定災害復旧事業「名取川地区」排水機場ポンプ運転稼働式	新相の釜排水機場
	8日～9日	疏水ネットワーク・大崎土地改良区	疏水フォーラムin大崎2014	大崎市古川「アインパルラ漁島」
	16日	島根県土地改良事業団体連合会	2014ため池フォーラムinご縁の国しまね	島根県民会館「本ホール」
	18日	大崎土地改良区	第10回内川水士里の路ウォーク	大庭園工、有隣館の森公園、内川沿線
	20日～21日	本会	東日本大震災からの早期の再生・復興と平成27年度農業農村整備予算の確保に関する要請活動	東北農政局、宮城復興局、宮城県、農林水産省、復興庁、本県選出国会議員
	23日	迫川上流土地改良区	国営造成施設管理体制整備促進事業（21世紀土地改良区創造運動）「花いっぱい運動」	栗原市立金成小・中学校
	23日	東北農政局農村計画部	県内土地改良区理事長と東北農政局との意見交換会	仙台合同庁舎8階講堂
23日～24日	本会 JQA日本品質保証機構	ISO9001:2008更新審査	本部並びに古川事業所	
28日	本会	平成26年度消防訓練並びに避難訓練（本部）	本会1階駐車場及び5階大会議室	
30日	全国土地改良事業団体連合会	都道府県水土里ネット会長等会議	山梨県甲府市「アイメッセ山梨」	
30日～31日	全国土地改良事業団体連合会 山梨県土地改良事業団体連合会	第37回全国土地改良大会山梨大会	山梨県甲府市 「アイメッセ山梨」	
11月	6日	迫川上流地区管理体制整備推進協議会	平成26年度栗原地方の水源を守る「植樹祭」	小田ダム下流
	6日～7日	本会 東部支部	宮城県土地改良事業団体連合会東部支部会員研修会	新潟市亀田郷土地改良区
	10日	山元町施工業者災害防止連絡協議会	農山漁村地域復興基盤総合整備事業 山元北部・磯・山元東部地区復興安全祈願式	巨理郡山元町「J A みやぎ巨理旧山下イチゴ集中選果場」
	10日	あぶくま川水系角田地区土地改良区	平成26年度21世紀土地改良区創造運動「大森山植林体験」	角田市島田、池田ため池上流、大森山山頂付近
	11日	本会	平成26年度農地集積先進地視察研修会	胆沢平野土地改良区外
	12日	宮城県中山間地域活性化推進協議会	宮城県中山間地域活性化推進協議会担当職員研修会 農村研究フォーラム2014—中山間地域の振興のための技術開発—	東京都千代田区「秋葉原コンベンションホール」
	12日	宮城県農林水産部	平成26年度宮城県中山間地域等活性化研修会	黒川郡大和町「まほろばホール」
	17日	東北農政局	管内耕地課長及び管内土地改良事業団体連合会専務等の合同会議	仙台市青葉区「宮城県農工事会館」
	19日	七ヶ浜地区施工業者災害防止連絡協議会	農山漁村地域復興基盤総合整備事業 七ヶ浜地区復興安全祈願式	宮城郡七ヶ浜町「ほのぼの農園隣接地」
	20日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会	平成26年度東北・北海道ブロック管理主任者会議及び土地改良施設管理円滑化事業管理専門指導員会議	仙台市青葉区「仙台ビジネスホテル」
	20日～21日	本会 仙台支部	平成26年度水土里ネットみやぎ仙台支部会員代表者及び職員合同研修会	岩手県石巻市東部土地改良区外
	20日～21日	本会	東日本大震災「農地災害復旧・復興事業各推進協議会等」関係者情報交換会	大崎市鳴子温泉「仙庄館」
	25日	全国土地改良事業団体連合会	農業農村整備の集い	東京都千代田区「シェーンパッサ・サボア」
	25日～26日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会	農業農村整備関係予算の確保並びに東日本大震災からの再生・復興に関する要請活動	農林水産省、復興庁、財務省
	26日	気仙沼・南三陸地区農地災害復旧・復興事業推進協議会	平成26年度気仙沼・南三陸地域新米(復興米)試食会	J A 南三陸本吉支店「2階大会議室」
27日	宮城県農業用水利施設小水力等発電推進協議会	平成26年度第1回総会	本会5階大会議室	
12月	2日	全国農業集落排水事業推進協議会	平成26年度農業集落排水事業推進研修会	東京都港区「航空会館5階」
	4日～5日	本会	平成26年度土地改良区役員研修会	大崎市「鳴子観光ホテル」
	4日～5日	本会 大河原支部	宮城県土地改良事業団体連合会大河原支部研修会	本会402会議室及び東松島市
	8日	本会	平成26年度第2回理事会	大崎市「鳴子ホテル」
	8日	本会	平成26年度新米（復興米）試食会	本会5階大会議室
	17日	本会	平成26年度土地改良区職員研修会	本会5階大会議室
19日	全国土地改良事業団体連合会	平成26年度農業農村整備優良地区コンクール 中央選考委員会	東京都千代田区「砂川会館別館3階」	

今後の行事予定

2月	12日	本会	第3回理事会	本会4階役員室
	14日～18日	仙台市、宮城県、宮城県土地改良事業団体連合会、農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所、農林水産省東北農政局	第3回 国連防災世界会議	AER「TKPガーデンシティ仙台」
3月	20日	本会	第56回通常総会並びに平成26年度土地改良功労者表彰式	本会5階大会議室
	25日	全国土地改良事業団体連合会	全国土地改良事業団体連合会通常総会及び第56回全国土地改良功労者表彰式	東京都

しょう すい りょく はつ でん

小水力発電キットを貸出し致します!

どこにでもある水路で水のチカラを利用して、超低落差・小水量で発電できる『螺旋式水力発電機』です。農業用水路に置くだけで発電でき、小水力のチカラを実感でき、再生可能エネルギー（小水力発電）について学ぶことができます。



長さ110cm



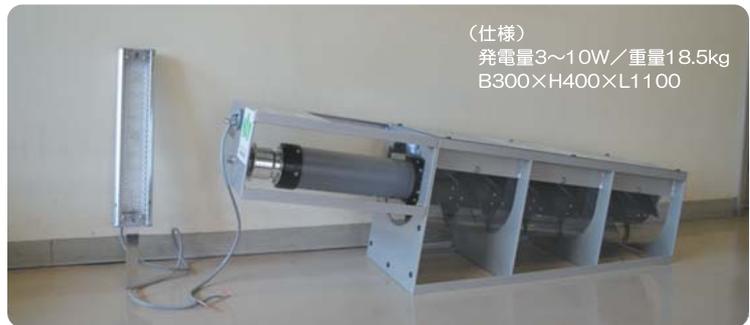
高さ40cm



幅 30cm

申込みの重複等によりご期待に添えないことがあります。
※貸し出しについては、会員対象とさせていただきます。(市町村・土地改良区)

 **みどり 水土里ネットみやぎ**
総務部企画広報班
TEL 022-263-5812
FAX 022-268-6390



(仕様)
発電量3~10W/重量18.5kg
B300×H400×L1100

「小水力発電キット」借用申込み書

借用月日:	平成 年 月 日
返還月日:	平成 年 月 日

借用者記入事項	
1.団体名	
2.住所	
3.電話番号	
4.アドレス	
5.担当者名	
6.使用目的	
7.その他	

貸与者記入事項	
貸し出し担当者	氏名: <input type="text"/>



事務局	
	宮城県土地改良事業団体連合会 総務部企画広報班 TEL022-263-5812/FAX022-268-6390

GIS開発/データ作成/ファイリング

VELTEC

株式会社ベルテック

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4丁目4番3号
TEL 022-299-1231 FAX 022-299-1141

✦ 主な業務内容 ✦

- GIS支援業務 : 地理情報システム・開発・解析処理等
- データベース・ファイリング業務 : CAD入力・電子化ファイリング等
- 広告・デザイン・看板製作業務 : ポスター・のぼり・看板等
- 測量調査業務 : 航空写真測量・地上測量・農地現況調査等

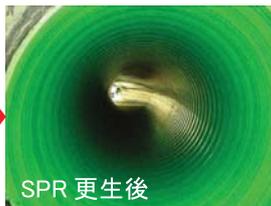
*一般社団法人 JASFA会員

非開削で既設管を 水密性抜群の管に スピード更生!

農業用SPR工法



既存管



SPR 更生後



管の形状
口径・勾配に
フレキシブルに
対応!



日本SPR工法協会 東北支部
〒989-3124 仙台市青葉区上愛子字車 39-3
TEL・FAX 022-392-5981

日本SPR工法協会
TEL03-3234-8495(代)
ホムパ-ジ <http://www.spr.gr.jp/>



●発行 2015年1月1日

水土里ネットみやぎ (宮城県土地改良事業団体連合会)
〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目2番8号
Tel 022-263-5811 (代表) / Fax 022-268-6390
<http://www.mlw.or.jp>

●印刷

株式会社 イシカワ印刷
〒983-0044 仙台市宮城野区宮千代一丁目24-9
Tel 022-238-0999 / Fax 022-235-9035